

# 卒業研究Ⅰ

[演習] 第3学年 後期 必修 2単位

《履修上の留意事項》 毎回、各自のPCを必携のこと。授業では、毎回、各自のPCを使って演習をしますので、忘れずにPCを持参してください。

《担当者名》 教授／二瓶 裕之  
教授／笠師 久美子、教授／塚本 容子、教授／鎌田 樹寛、准教授／新岡 丈治、准教授／唐津 ふさ  
講師／西牧 可織、講師／池森 康裕、助教／米田 龍大、教授／志水 幸、教授／野田 昌道

## 【概要】

「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は、臨床データサイエンス学環における学びの集大成となります。医療人を目指す学生とともに学んだフィールドワークを起点として、地域の特性や社会的背景から生まれる課題をデータサイエンスにより解決します。「卒業研究Ⅰ」では、課題が生じた背景を調査したうえで、データサイエンスにより、どのように解決していけばよいのかといった課題解決のための計画を立案します。立案した計画に沿って研究を進めるなかで、計画通りに課題が解決されるとは限らないことを実感し、トライアンドエラーを重ねながら、より最適な解決策を模索します。

(二瓶裕之・笠師久美子・塚本容子・鎌田樹寛・新岡丈治・唐津ふさ・西牧可織・池森康裕・米田龍大・志水幸・野田昌道／全15回) (共同)

## 【学修目標】

- ☆研究課題の背景や目的を説明できる。
- ☆研究テーマに関連する先行研究や文献を列挙できる。
- ☆課題解決のための計画を立案し、実施できる。
- ☆調査や討議に積極的に参加し、意見を表現する。
- ☆課題解決に向けたアイデアや手法を工夫できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	卒業研究Ⅰの進め方、全体スケジュール、テーマ設定のポイント説明	担当者全員
2～5	研究テーマ設定	フィールドワーク経験や社会的背景をもとにした課題の抽出、研究テーマ設定ワークショップ	担当者全員
6～10	先行研究・文献調査	研究テーマに関連する先行研究・文献の調査・整理。調査結果を共有し、テーマの妥当性を確認	担当者全員
10～15	研究計画立案	課題の背景整理と、データ収集・分析の計画立案。研究仮説や検証手法、プロジェクトマネジメント計画の作成	担当者全員

## 【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

授業参加態度：30%、研究テーマ設定・計画立案：70%

## 【備考】

- ・本学DX推進サイト (<https://dx.hoku-iryo-u.ac.jp/>) に公開している資料を使用する。
- ・東京大学 数理・情報教育研究センター ([http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university\\_consortium.html](http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html)) に公開されているリテラシーレベル教材と応用基礎レベル教材も使用する。

## 【学修の準備】

・事前に具体的な調査資料を配布するので、個々で調べて授業に臨むこと(45分)。授業終了後は、グループ討議の結果を自分なりに振り返り、授業中に作成したプロダクトを再度作成するなどの事後学修(復習)を行うこと(45分)。

## 【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 一般的なデータサイエンティストとしてのデータ分析・解析・AI などにかかるスキルにより瞬発力をもって課題を解決でき、加速度的に広がる生成AIなどの先進的技術を応用できる実践能力を身につけている。

2. 人の心と体の基礎知識をもち、患者中心のケア、医療倫理の遵守などのケアの原則を踏まえ、「医療人としての視点」に立ったデータサイエンティストとしてふさわしい解決策の策定能力を身につけている。
3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
4. プログラミング言語を世界の共通言語として捉えるとともに、多様な文化と価値観を尊重し、データサイエンティストとして地域及び国際社会に貢献できる能力を身につけている。
5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

**【アクティブ・ラーニング】**

導入している

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している